



まーくんのまっ黒くもくも、もくもく

9がつです。 なつやすみはおわって……。でも、とってもあついひでした。

ちきゅうのてっぺんまで つきぬけるようなみずいろのそらのした、

しょうがく1ねんせいのまーくんは、のろのろあるいていました。

おもい、おもい、ランドセルにつぶされそうです。

「きょうはサイアクの いちにちだった……。」

まーくんは、かんじテストがあるのをわすれて、べんきょうしないでがっこうにいつてしまったのです。

やっぱり、いつものはんぶんも、こたえがかけませんでした。

せんせいが、まちがえたところを10かいずつかく しゅくだいをだしたので

きょうはかんじばかりかかないといけません。でも、それよりも いやだったのは、

せんせいが「まーくんはかんじ、いちばんかかないといけないぞ！」といったので、

となりのせきのよしださんがからかってきたことでした。

「あ、ということは、まーくんがいちばん、まちがえたんだ〜！」

まーくんがじろっとにらむと、よしださんは『いーっだ』をしました。

それに、うんどうかいのれんしゅうも いやでした。

はじめてのうんどうかい。きょうは、ときょうそうのれんしゅうでした。

まーくんは、おそくてもいっしょうけんめい はしったのに、ころんでしまったのです。

そして、みんなに、わらわれてしまったのです。

「うんどうかいなんか、サイアクだ。」

はああああああ。おおきなためいきをついて、まーくんはがっくりと、かたをおとしました。

まーくんのおうちは、はなやさんです。かおをあげたら、おはなたちがむかえてくれるでしょう。

でも、まーくんはじっとうつむいて、みせのまえにたっていました。



おかあさんは、はなやさん

まーくんがしょんぼりみせのそとにたっていると、おかあさんがでてきました。

「あらっ！まーくん、おかえり～。・・・どうしたの？」

いつもは「ただいまあ～。」とげんきにかえってくるまーくんが

どんよりうつむいているので、おかあさんはびっくりしました。

「・・・・・・・・なんでもない。」

「ほんとに、なんでもないの？」

「・・・・・・・・。」

「おうち、はいろっか？」

「・・・・・・・・。」

おかあさんは、うりものの、きれいなおはなたちをいくつかまとめて

かわいいブーケをつくりながら、まーくんにいいました。

「きょうは、がっこう どうだったの～？」

おはなのいいかおりが、ふわっと まーくんにもとどきました。

まーくんはまゆげと、めを、ぎゅっとくしゃくしゃにしていきました

「・・・・・・・・サイアク。」

「サイアクだったの～！」

「ぼく、あした、がっこういかない。」

「まあ、がっこうにいきたくないくらいのサイアク？なにがあったの～？」

「・・・・・・・・。」

まーくんはむっつり、だまってしまいました。

だって、うまくいえないのです。

わらうみんなのこえが、ぐにゅぐにゅ、もくもく、くろくひろがって

むねがまっくろいくもでいっぱいになってしまったようなきもちなのです。

おかあさんは、ひっくりかえしまじょ、1きゅう？！

まーくんの、どんよりしたかおを、じっとみてから、おかあさんは、まーくんのてをとりました。

おかあさんのては、すこしぬれていて、ひんやりしていました。

「うまくいえないなら、いえなくてもだいじょぶ！」

まーくんはくちをとがらせました。

「そんなわけないもん！おかあさん、ちゃんとせつめいしてって、いうじゃん。」

「ふふふ。それは、むかしのおかあさんです。」

まーくんが、むかしって、なに？ってきこうとしたら、

おかあさんが ぎゅっ と、てをにぎっていいました。

「まほうでやっちゃおう！」

「はあ？」

「おかあさん、ひっくりかえしまじょけんてい1きゅう。なんだから！」

まーくんは、にこにこはなやかにわらっているおかあさんのかおをみて、

すっとんきょうなこえをあげました。

「なにそれ？」

「いいから。いいから。ほら、ちょっと、こっちきて！」

「えええ？！」

おかあさんはまーくんのてをしっかりとにぎって、みせのすみっこにいきました。

そして、てをはなすと、たくさんのハーブの入っているバスケットから

なにやらごそごそと・・・1ぽんの、ふるぼけた き のぼうをとりだしました。

「よしっ！・・・いくよ、まーくん！！」



くもくも、もくもくと、ひっくりかえりまじょ～

まーくんは、ニコニコえがおのおかあさんを見て、くびをかしげました。

「なにやってんの？おかあさん、それ、なに？」

「まほうのつえよ。」

くるりん！とおかあさんがそのつえをまわすと、なにかひかったようにみええました。

まーくんは、びっくりしました。

「まーくんがなつやすみのキャンプにいつてるときね、

おかあさん、『ひっくりかえし、まじょけんてい』をうけたの。それでね、きょう、ごうかくつ
うちがきたのよ！1きゅうごうかく！」

「『ひっくりかえし・・・まじょ』？なにそれ？」

なにがなんだか、さっぱりわからない。まーくんはくちをぽかんとあけました。

「おっ、もう、おくちをあけてくれた！さすが、まじょのむすこ。」

くちびるをぺろんとなめて、おかあさんはまほうのつえを、まーくんのくちにむけました。

「ほら、きょうのサイアク！・・・おもいだしてみて～。」

サイアク・・・・・・・・。

とたんにまーくんはきょうあつたことをおもいだしました。

せおったままのランドセルが、また、おもくなりました。

はああああああああ。

まーくんが、おおきなためいきをつくとき、おかあさんがつえのさきっぽをくるんとまわしました
。

するとなんと・・・くちから、まっくろなくもがでてきたのです。



トゲトゲぐもがでてきた！！！！

まーくんが、びっくりしてりょうほうの、め がとびでるほどでした。

そして、そのめをぱちぱちさせているあいだに、くちからでたまっくろいくもは

もくもく、もくもく、もくもく

おかあさんのまほうのつえにひっぱられるようにくちからでてきました。

「あが~~~~~。」

「うふふふふ。だいせいこう！」

かたてをくちにあてて、おかあさんがほほえみしました。

「えええええええ。」

「ふふふふふふ。」

おどろくまーくんと、ほほえむおかあさんのあいだに、

おおきなスイカほどのくろいくもが、ぷかぷかうかんでいます。

よくみると、つんつん、とげとげしていました。

「このくろいくもがね、さっき、まーくんが『いえなかったきもち』だよ〜。」

まーくんは、おどろいて、ぽかんとくちをあけたまま、うなずきました。

「うそみたい・・・。」

でも、ほんとうに、じぶんのくちからでてきたのです。

「よ〜く、みてみようね。」

おかあさんはくものまわりをぐるっとまわりました。

「ふむふむ。くもだけちょっと、とげとげしている・・・。ね？」

「う、うん。」

「すごい、りっぱなくもだねえ。」

あれ？おかあさんとふたりで、くもをみているあいだに、まーくんのランドセルはかるくなったようでした。

ひっくりかえし、まじょ〜〜〜〜！

「なんていうか、すごい、エネルギー……。すきだなあ〜。こういうの。」

おかあさんは、まっくろなつんつんぐもをみて、うんうん。とえがおでうなずきました。

まーくんはおどろきました。くすぐってたくて、むずむずしたきもちになりました。

むねのなかにはねがはえたようでした。

「でも、だって、これは、まっくろでもくもくしてるし、つんつんしてるし。よくないよ。」

まーくんは、ほっぺをちょっとあかくしていいました。

「あら、『よくない』ことなんか、ひとつつも、ないのよ。」

「あのねえ、ひっくりかえしまじょからみたら、みんな『いい』ことなんだって！」

「よくわかんない。」

「ふふふふ。これから、わかるわよ〜。」

「それになんだかちょっと……。おかあさん、なんかこれ、こげくさくない？」

くんくん。ふたりでにおいをかいでみると、ほんとうにすこし、こげくさいのでした。

「ほんとだ。すごい。いいこと、わかっちゃったかも！こげくさいってことは、もえてるのよ！」

「えっ？」

「よし、いくわよ！ひっくりかえし、まじょ〜〜〜〜！」

おかあさんがまほうのつえをおおきく、1かいぐるんとまわすと、

くろくもがぐるんぐるんとまわりはじめました。

ひっくりかえった！

ぐるん、ぐるん、ぐるん。

くろいくもがまわっているうちに、

だんだんとあかいほのおのいろがみえてきました。

とげとげの、かたちはそのまま、くろいくもだけがあとまざって

ひっくりかえると

なんと、そこにでてきたのは、

たいようでした。



なつやすみにかぞくでいったうみのうえにかがやいていた、あの、たいようでした。

「わあ~~~~~。」

まーくんは、こころがはれはれしてきました。

「ぼくの、とげとげのくもが、おひさまになった！」

「ふふふふ。」

「おんなじかたちだからね～。つながってるのね～。」

「そうなの？すごい、すごい！」

まーくんはわらっているおかあさんにだきついて、ぴよんぴよんと、はねました。

おかあさんは、やさしく、そしてぎゅううっとまーくんをだきしめていました。

「おかあさんは、どっちも、すき。どっちのまーくんのきもちも、だいすきよ。」

まーくんは、はなのなかがつんとして、めからなみだがぽろんこぼれました。

くやしいけど、こぼれだしたらとまらないのがなみだです。

まーくんは、おかあさんにだきしめられたまま、

えんえんと、おおごえで、なきました。

あのね、あのね、きょうね、がっこうでね・・・・・・・・。



ぼくのおかあさんは、ひっくかえし、まじょです！

ひっく、ひっくと、なきながら、きょうあったことをしゃべるまーくん。

おかあさんは、うんうん、とうなずきながら、ゆっくりとだきしめました。

そして、つめたいミルクをコップに入れてくれました。

いつのまにか、まっくろな、つんつん くろくも も、

きれいなぴかぴかたいようも、きえていました。

でも、ミルクをのんだあとのまーくんのおなかのなかには、

あのたいようがかがやいているようなきがしました。

それから、ふたりでいっしょにおみせでブーケをつくりました。

「ねえ、おかあさん。」

「なあに？」

「ぼく、これおわったら、かんじ、かくんだ。うんどうかいもね、いっしょうけんめいはしるから、おべんとうすごいのにしてね。」

「よし！まかせて！」

「おかあさん、おねぼうだから、きをつけてよ！」

「あっちゃ～。これも『ひっくりかえし、まじょ～』・・・できるかなあ？」

「おかあさんのおねぼうは、そのままかもね～！」

まーくんと、おかあさんはかおをみあわせて、にかっとわらいました。

ぼくのおかあさんは、『ひっくりかえしまじょ』1きゅうの、やさしいおかあさんです。

